

「今、私の晴雨計は！<sup>②4</sup>」

グリーン公演で思い出した  
Mさんのこと

平山征夫

昨年十一月に私が学生時代所属し活動していた横浜国大グリーンクラブのOB合唱団が新潟公演したことについては、実行委員会

会長を務めた話など既に「二度目の青春」というタイトルで書いた。その中で「五十一年前の柏崎での合宿、コンサートのことを思い出した」と書いたが、実はもう一つ思い出したことがあった。それは、Mさんのことである。

今回実行委員会会長を務める六年前、私が早大グリーンOB合唱団の新潟公演の実行委員会会長

を引き受けたことがあると言え  
ば「そんな？」と思われるだろう  
が事実である。早大グリーンOBの  
Mさんの強い要請があったから  
だ。MさんはOB会報に書いた  
「第九の「第四」のスタート時に  
地元TV局に勤務しており、第四  
からの委託でステージプロジュ  
ーサーを務めていた。

早大グリーン出身の彼はこの企  
画を大変喜んでくれた。第一回の  
第九コンサートの時、演奏が終わ  
りステージから降りて出てくる  
と、Mさんが自らマイクを持って  
歌い終わった人たちにインタビ  
ューしていた。私にもマイクが向  
けられた。そして後日同局から放  
送されたラジオには歌い終わっ  
た直後の感動した私の声が入っ

ていた。この初回の指揮者は石丸  
寛さんだった。癌と闘っているこ  
とを公表していた石丸さんの指  
導は「地方に良い音楽を根付かせ  
よう！」と言う理想を死ぬまで追  
い求める気迫に溢れ、その日の指  
揮は鬼気迫るものがあつた。終わ  
ってホールの広場で冷たい缶ジ  
ューズで乾杯した時、首から茶色  
のマフラーを下げた石丸さんが  
慰労を兼ねて音楽活動への思い  
を込めた挨拶をすると皆が泣い  
た（この経験から第四の頭取に頼  
んで翌年からはホテルで打ち上  
げとなったが・・・）。それから七  
年後石丸さんは癌で亡くなられ  
た。

Mさんも合唱に熱い想いを抱  
いており、TV局退職後は私が学

長に就任した大学で非常勤講師  
を務め「メディア論」を講義して  
いたが、今度は歌い手として一緒  
に第九のステージに立った。その  
Mさんが「早大グリーンOB合唱団  
の新潟公演があるのだが、実行委  
員会会長を引き受けてくれない  
か？」と言う。「でも私は横国大  
グリーン卒ですよ」という私にMさ  
んは「私が現役の頃合唱コンク  
ーは、東京と関東が未だ一緒にグ  
ループだった。そのため早大と横  
国大は熾烈な代表争いを毎年繰  
り返していたが、早大はかなり負  
け越した。ここはその罪滅ぼしと  
思っけて引き受けてくれないか」と  
言うよくわからない理由だった。  
ただ、彼が置いていった「早大グ  
リークラブ史」を読むとその間の

両大の闘いぶりはドラマティックで大変面白かった。男性合唱の愛唱歌として最も有名な「遙かな友」が早大グリーの合宿で生まれた経緯も知ることが出来た。早大側から横国大を見ることが出来たし、何より双方これだけのライバルがいたからこそグリー活動に青春のエネルギーを燃やしたのだろうと思った。そう思うとどちらでもよくなり、会長を引き受けることにした。

しかしこの会長職は、活動を開始した途端に発生した3・11の大地震で公演が中止となり、「幻」に終わった。この話には余談がある。それから数か月後Mさんと同じ頃に早大グリーで活躍していたメンバーで結成され我が国の

代表的ボーカルグループとなったボニージャックスのセカンド・テナー「あっちゃん」こと大町正人さんが亡くなられた。生前の大町さんとは交流があった。アジアカ文化祭などで一緒に、アンコールのステージに上げられて一緒に歌ったこともあった。東京のホテルで開かれた「偲ぶ会」には多くの音楽仲間の歌手などが参列していて、追悼の挨拶だけでなく歌ってお別れをするという趣向のため大変賑やかな会だったが、何と言っても早大グリーOB合唱団による追悼ステージが圧巻でジーンときた。終わって団長さんに「新潟公演の幻の実行委員会会長です」と挨拶した。帰ってきてその話をMさんにすると大

変喜ばれた。そのMさんも「声が出なくて歌えない」と言いながら、頑張ってステージに立っていたが、暫くすると観客側に廻り、二年ほど前ついに癌で亡くなられた。彼も男性合唱に青春を燃やした一人だ。

今回のグリーの新潟公演が思い出させてくれたもう一つの話である。

(平成二十九年二月二十七日)